保護者の方へ
ましすく通信
札幌市子どもの権利救済機関　子どもアシストセンター広報紙
vol.29
2026年1月
SAPPORO

成長段階別　子どもの権利を尊重するためにおとなが意識したいこと

子どもの権利は、すべての子どもが生まれながらにもつものです。「子どもの権利条約」（児童の権利に関する条約）では、生きる権利や参加する権利など、さまざまな権利が定められています。では、おとなは子どもの権利を尊重するために、どのようなことに気をつけるとよいでしょうか。子どもの成長の段階ごとに見ていきましょう。

乳児 01

泣く、笑うなどの表情や仕草で気持ちを表現します。

親がすぐに反応することで、人への信頼感の基礎となる愛着が形成されます。親のストレスが赤ちゃんに伝わることもあるので、親自身のメンタルケアも大切です。

幼児 02

子ども自身の意思が出てきます。

子どもの「やりたい」気持ちを尊重しましょう。この時期は遊びが大切な教育です。遊びによって社会性が育まれ、発達が促されます。また、意見表明の基礎づくりとして、子どもの話を丁寧に聴くことも重要です。

小学校低学年 03

善悪の理解と判断ができるようになります。

家庭のなかでもルールづくりへの参加や、お手伝いを通して責任感を育むことは大切です。しかし家庭は子どもにとって安心してほっとできる場であることが必要です。親は子どもの小さな変化に気づき、安心して話せる関係性を心がけましょう。

小学校高学年 04

子どもの世界が広くなります。

何事も親の都合や考えを主導するのではなく、本人の意思を確認していきましょう。スマートフォンやインターネットの使用については、子どもと話し合い、ルールを決めることも大切です。親は心配になりますが、親であっても子どものプライバシーは尊重しましょう。

中学生 05

親に反抗したり、批判的にみたりすることがあります。

反抗期も成長には必要なプロセスです。子どもを一人の人として尊重し、共感と対話を大切にしましょう。また、思春期の心的な不安や、不登校、ストレスの兆候に気づくためには、親の日ごろからの無条件の受容（よい子だからではなく、どんな子どもでも親にとって大切な存在）が大切です。

高校生 06

進路や人生の選択をしていく時期です。

将来の夢や選択肢には、否定ではなく対話でかかわりましょう。
また、子どもが家庭外の社会参加を望んだり、権利を主張したりしたときは、肯定的に支援しましょう。親は子どもの指導者から伴走者へと、立ち位置を更新する必要があります。

チェックポイント

すべての成長段階において共通して大切なことは、子どもに関することを決めるときに、おとなの都合ではなく「その子どもにとって最もよいことは何か」を第一に考えることです。親は子どもが成長するに連れ、それまで意識したことのなかった子どもの権利について学ぶことも必要になるでしょう。裏面に、子どもの権利を尊重するための親向けチェックリストを載せましたので、よろしければ参考にしてみてください。

小学生・中学生編

子どもの権利を尊重するための親向けチェックリスト

小学校低学年（6～9歳）

- ☐ 子どもの話を最後まで聴いていますか？
- ☐ 家庭の中で、子どもが意見を言える場面を作っていますか？
- ☐ 子どもが挑戦や失敗を経験できるように支えていますか？
- ☐ いじめや不安のサインに気づけるよう、日々の様子を観察していますか？
- ☐ 日ごろから学校や担任とコミュニケーションをとっていますか？

小学校高学年（9～12歳）

- ☐ 子どものプライバシーを尊重していますか？（子ども部屋、日記、SNSなど）
- ☐ 子どもの意見を否定せず、まず受け止めていますか？
- ☐ インターネットやスマートフォンの使い方について、対話的にルールを作っていますか？
- ☐ 学校や家庭内の意思決定に子どもが参加できるようにしていますか？

中学生（12～15歳）

- ☐ 子どもを「一人の対等な人」として尊重する態度をとっていますか？
- ☐ 思春期の身体や性に関する話題を避けずに話せていますか？
- ☐ 子どもの感情の変化やストレスに気づいていますか？
- ☐ 進路選択について、子どもの希望や不安を丁寧に聴いていますか？
- ☐ 人間関係やSNSの悩みを話せるような信頼関係を築いていますか？

※本チェックリストは、国連子どもの権利条約およびOECD等の国際的資料に基づき作成しました。

子どものこと相談してみませんか？

子どもアシストセンターは、お子さんにとって最も良いことを相談者と一緒に考えます。お子さんのことで気になることがあれば、どんなことでもご相談ください。

例えばこのような相談が寄せられています。

01 小学校高学年の親

子どもが何かあるとすぐ親にあたります。本人の気持ちを汲み取ろうとしてもうまくいかず、向き合うのが辛いです。親なのにこんなふうに感じる自分を責めています。

辛くなるほどしっかりお子さんに向き合っているのですね。お子さんを大切に思う気持ちが伝わってきました。これからは信頼できる方と困難な状況を共有しましょう。ご家庭での様子を学校の先生に伝えて、一緒に対応を考えてもらえるとよいですね。「しんどいな…」と感じるときは、またアシストセンターにお気持ちをお話しください。

アシストセンター
相談員

02 中学生の親

子どもが親と話し合って決めたスマートフォンの使用ルールを守らず、注意すると反抗的な態度をとります。子育てを間違ったのでしょうか。

親子で話し合ってルールを決めたなんて素晴らしいですね。お話から、お子さんなりに学業や生活に支障が出ないよう考えているように感じました。もう一度お子さんの思いや考えをよく聴いて、ご家族で話し合ってみてはいかがでしょう。失敗したらまた話し合う、トライ＆エラーの精神でいきませんか。

※プライバシー保護のため、実際の相談に基づき内容を再構成しています。

相談はこちら

相談は無料です　秘密は守ります　面談もできます　第三者機関です

大人用
011-211-3783

電話でのご相談は、終了の30分前までにお願いします。
面談をご希望の方は、事前にご連絡ください。

月～金　午前10:00～午後8:00　土　午前10:00～午後4:00

日曜日・祝日・年末年始はお休みです

E-mail
assist@city.sapporo.jp
こちらを読み取ると入力の手間がなく簡単です

ホームページ
https://www.city.sapporo.jp/kodomo/assist/
ホームページはこちらから

発行：札幌市子ども未来局子どもの権利救済事務局　TEL 011-211-2946

さっぽろ市
02-G04-25-1543
R7-2-1095